

平成29年度京都府立峰山高等学校学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（中間評価） 平成29年 9月

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>○ 京都府北部の中核校として、伝統を継承しながら高い理想を求め続け、地域に信頼される学校づくりを推進する。</p> <p>○ 教育スローガン（校是）、教育方針、教育目標及び求める生徒像の具現化のため、全教職員が一体となって取り組む。</p> <p>○ 全教育活動を通して、生徒と教職員が共に成就感と感動を味わえる、明るくさわやかな学校づくりに努める。</p>	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートはほとんどの項目で目標値を達成した。生徒対象「入学して良かった」、保護者対象「入学させて良かった」はそれぞれ95%、96%という高い肯定的回答を得た。 ・特色化事業への参加者は多くの事業で昨年度を上回り、各種取組を通して学問への興味・関心が高まるとともに国際理解が深まった。 ・遅刻者数、自主学習時間、授業満足度のいずれも目標値を達成した。 ・毎朝の教職員による校門指導、校内での普段からの声かけ、生徒会を中心とした各種取組等を通して、全体に規律ある学校生活が維持できた。 ・ボランティア活動に多くの生徒が参加し、人間的成長と進路実現に繋がった。 ・早期からの計画的な就職指導が功を奏し、公務員5名合格、民間企業就職内定率100%を達成した。 ・国公立四大へは推薦・AO入試14名を含め、延べ52名が合格した。 ・生徒による清掃点検等の取組を通して、美化意識の向上が見られた。 ・積極的なスクールカウンセラーの活用と情報共有により支援が必要な生徒等への対応が進んだ。 ・図書に親しむ活動が工夫され、来館者数・貸出冊数の増加に繋がった。 ・峰高だより、ホームページ、各種たより等、さまざまな広報活動を質・量ともに充実させ、家庭・地域への情報発信を積極的に行った。 ・各種行事に多くの保護者の参加があり、学校への関心の高さが窺われた。 ・産業工学科インターシップの充実、関連企業等と連携強化、弥栄分校との課題研究合同発表会の開催など、特色ある専門学科づくりが進展した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点目標及び具体的方策の焦点化と目標値の検討 ・特色化事業の周知方法の工夫と多様な人材の活用 ・年度後半の遅刻増加傾向に対する対応 ・学力中間層生徒の学力向上に向けた具体的方策 ・主体的に学ぶ姿勢を育てるための授業改善に向けた組織的取組 ・校内外の規範意識の更なる向上 ・部活動の加入率と定着率の向上及び学習との両立に向けた環境整備 ・学年部、教務部、各教科担当と連携強化した進路指導 ・日常指導における自尊感情の涵養と美化意識の更なる向上 ・図書館の多角的な利用の推進 ・タイムリーな情報発信に向けた体制整備と家庭・地域との更なる連携 ・アカデミック・インターシップ（大学進学希望者向けのインターシップ）の充実 ・産業工学科インターシップや課題研究の更なる充実と関係機関との連携強化 	<ol style="list-style-type: none"> 1 希望進路の実現につながる質の高い学力の定着と課外活動との両立 2 地域との連携によるキャリア教育の充実と郷土愛の醸成 3 高い志と柔軟な国際感覚を持ち社会に貢献できる人材の育成

※評価は4段階とし、A～Dの記号で表記する。

A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
府立高校特色 化事業「グロ ーバルネット ワーク京都」	アカデミックミネ・プロジェクト による学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 各種コンテストへの参加や検定受検、「科学の教室」への参加、高大連携事業への参加を促す。 <p>【コンテスト参加、検定受検人数 延べ1000名以上】 【「科学の教室」参加人数 延べ140名以上】</p> <p>【高大連携事業参加人数 延べ150名以上】</p>	B ----- B ----- B	<ul style="list-style-type: none"> 全体としては意欲的な生徒も増加しており、概ね数値目標を達成できる見通しである。生徒が一層参加しやすい環境を作る必要がある。 「科学の教室」へ興味を持って積極的に参加する生徒が少なく、今後どのような生徒を育てていくかを含めて検討をする必要がある。 漢検、英検の受験者が伸び悩んでいる。授業内外での声かけが必要である。 生徒の活動の様子や声等を紹介し、各種取組が身近に感じられるような更なる工夫やPRが必要である。
	コミュニケーション・プロジェクトによるコミュニケーション能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 卒業生や企業人、留学生等と交流する。 	—	
	コミュニティ・プロジェクトによる社会貢献意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 「地域活動100」と題し、生徒が地域で学ぶ機会を積極的に設け、参加を促す。 <p>【地域活動参加事業数 100以上】</p>	B	
学習指導	主体的学習態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> 教務部・学年部・生徒指導部等が連携し、保護者の協力を得て、始業5分前登校を徹底させる。 <p>【1日平均遅刻者数6人以内】</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 1学期末時点で、1日平均遅刻者1.92人、学習時間2時間19分、授業満足度「座学3.4」「実技3.4」とすべての項目で目標値を上回った。 2学期以降の気の緩み（1年生の慣れ、2年生の中だるみ、3年生の進路決定など）等による生徒の意識低下に留意し、多くの教職員で関わることで指導を継続していく必要がある。 研究授業等を有効活用し、生徒の主体的な学びを探究する必要がある。
	教科指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が積極的に参加する授業の実現に向けて、公開授業の在り方を検討する。 <p>【自主学習時間1日2時間】 【授業アンケートで授業に満足全体平均3.2/4.0】</p>	A ----- B	
生徒指導	規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> 定期検査と毎朝の校門指導により、服装、頭髪指導を徹底し、あいさつの励行を促す。 <p>【身だしなみ向上週間のチェック対象生徒 50名以内】</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> 規範意識の向上と教職員の指導により、登下校・校内での身だしなみは改善され、落ち着いてきた。 一部生徒の乱れについては、指導の徹底に向けて教職員全体の意識改革が必要である。 「いじめアンケート」は非常に効果的あり、指導に役立っている。 部活動加入率と継続率をもう少し向上させたい。学習との両立を考え、特に運動部への加入をためらう生徒も多い。新たな取組を検討する必要がある。 19:30の完全下校の徹底に向けて、
		<ul style="list-style-type: none"> 学年部をはじめ、関係分掌との連携を密にし、いじめを含む問題事象の未然防止に努める。 <p>【生徒指導部日より 年間20号以上発行】 【学年会での情報交換 年間8回以上】</p>	A ----- B	
	特別活動の活発化	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の加入率を向上させるとともに、学習と部活動の両立ができる環境を作る。 <p>【新入生部活動加入率 85%以上】 【19時30分完全下校の徹底】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会主催の活動を活発化させる。 <p>【学校行事以外の生徒会主催の取組 年間5つ以上】</p>	B ----- B ----- A	

				指導の改善が必要がある。 ・生徒会主催の行事・取組は充実しており、生徒会執行部の新体制に引き継いでいくべき取組も多い。ホワイトボードによる呼びかけは心温まる取組である。
進路指導	希望進路の実現	・学年部、教務部、各教科担当との連携を強化し、生徒個々の学力・希望の実態に即した指導を行う。 【国公立大学合格者 延べ40名以上】 【就職内定率 100%】 【進路検討会 教科担当者会議 年間5回以上】 【進路担任面談 年間3回以上】	— — B B	・進学・就職とも進路決定は現在進行中であるため評価できないが、目標実現に向かって進路指導部・学年部を中心に密な連携が図れており、どの学年も順調に学力を伸ばしている。 ・学習への動機づけとなる進路学習を更に充実させる必要がある。医療系希望者に対する取組は充実しているが、他の系統の進路希望者に対しても体験的取組を積極的に企画・発信することが必要である。
	キャリア教育の充実	・3年間を見通した系統的かつ体験的・実際の活動を通して、将来を展望した主体的な行動を促す。 【進路ガイダンス・講演会 6回以上】 【進路体験活動参加 延べ100名以上】	B B	
人権教育	人権意識の向上	・すべての教育活動を通じて生徒の自尊感情を高め、他者の人権を尊重する姿勢を育てる。 【<生徒アンケート>「生命や人権を尊重する指導が適切」 肯定率90%以上】	—	・各種活動の中で多くの生徒に他者を大切にすることは感じられる。 ・今年度人権通信を発行したが、さらに日常的な学校生活の中で人権意識向上に向けた指導が必要である。
健康・安全指導	教職員及び生徒の美化清掃へのさらなる意識向上	・清掃点検等生徒の委員会活動を活性化させる。 【(生徒アンケート)「美化、清掃が行き届いた教育環境」 肯定率85%以上】	B	・校内美化が行き届いてきたが、一部目の届きにくい場所がある。生徒会、保健委員会等のはたらきかけにより、日常的な美化意識の向上をはかる必要がある。 ・教育相談活動は情報交換や適切な支援について、有意義な会議となっている。
	教育相談関係生徒の実態把握と適切な支援	・教育相談会議を適切に開催し、情報交換や支援の方法について協議する。 【定例会議 10回以上】	B	
図書・情報活動	図書館利用の増加	・図書館を活用した授業や進路学習を支援する。・生徒の図書館利用を促す。 【貸出数 一人年間3冊以上で合計2,500冊以上】 【利用者実数 350名以上】	C C	・図書館の環境整備や広報を積極的に取り組んでおり、昨年より出冊数は増えているが、利用者実数が少ない。読書週間等を活用し、利用数の増加を図る必要がある。 ・教科・分掌等との連携を一層、深め、幅広い生徒が活用できるような工夫を行う必要がある。 ・校内LANは適切に運用されている。
	校内LANの適切な運用	・研修会等を通じて情報セキュリティ意識を高め、全教職員が機器と情報を適切に取扱う体制を作る。 【校内LANにおける重大事象の発生 0件】	A	

家庭・地域連携	広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・HPや「峰高だより」において生徒の活動を広く広報できるよう、情報の共有化を強化し幅広くタイムリーな発信を目指す。 【<保護者アンケート>「広報活動が充実」 肯定率80%以上】 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期にHPを78回更新、「峰高だより」を7回発行したが、お知らせメールの配信が例年に比べて少ない。 ・スマートフォンの普及等に対応し、学校HPのCMS利用など、よりタイムリーな情報発信に向けて校内システムの構築が課題である。 ・中学生向け広報誌「Information」を新たに発刊できた。 ・各種行事への保護者の方の関心は高まっている。PTA年度初総会への参加は近年では最も多く、夏の面談もほぼ100%実施できた。
	地域・保護者・PTAとの連携推進	<ul style="list-style-type: none"> ・三者面談、PTA総会、PTA事業、学校祭等への積極的な参加を促す。 ・お知らせメールを活用し、学校の様子をタイムリーに保護者に伝える。 【<保護者アンケート>「家庭と担任や学校との連携」 肯定率75%以上】 	B	
特色ある専門学科	地域連携の拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ、企業見学等により職業指導を充実させ、地域に根差した人材の育成に繋げる。 【2年生全員参加】 【事前・事後指導 5時間以上】 【地元求人 5社以上】 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の適性や地域性などを考慮して依頼をした結果、多くの新規企業を含め、26社でインターンシップを実施できた。2年生全員が参加した。 ・人手不足や団塊世代の退職等が原因で地元求人数が増加傾向にあるが、製造業への希望者が少ないので、企業見学や外部講師の活用などを通して指導を充実させる必要がある。 ・地元産業界と連携し、地域に求められる生徒像を具体化し、教育活動に反映させる必要がある。
		<ul style="list-style-type: none"> ・京都産業21、ポリテクカレッジ京都等近隣の職業訓練機関での実習を充実させる。 【20時間以上】 	B	
		<ul style="list-style-type: none"> ・校外イベント等で学科の活動を展示・発表する。 【3件以上】 	B	